



霧ヶ峰

再生
目標

霧ヶ峰高原を昭和 30 年代の多様な自然環境に復元

DATA

エリア：八ヶ岳中信高原国定公園
所在地：長野県諏訪市、茅野市、下諏訪町
着手：H20

霧ヶ峰自然環境保全協議会

概要：湿原の乾燥化や草原の森林化及び近年のニホンジカによる植物への影響が懸念される霧ヶ峰の半自然草原、湿原、樹叢からなる多様な自然環境の保全・再生を検討。



ニッコウキスゲ



キリガミネヒオウギアヤメ



キリガミネトウヒレン



コウリンカ

霧ヶ峰は、標高 1,500 ～ 1,900m に広がる半自然草原です。草原内には、天然記念物に指定されている八島ヶ原湿原など 3 つの高層湿原^{じゅうそう}や樹叢と呼ばれる原生的な樹林が点在し、キリガミネヒオウギアヤメ、キリガミネアサヒラン、ホザキシモツケ等の貴重な植物も生息しています。昭和 30 年代までは採草地などに利用されてきましたが、化学肥料の普及、農業の機械化等によりその役割が変化し、昭和 39 年に八ヶ岳中信高原国定公園として指定されたことを契機に、傑出した草原景観により公園としての利用が促進され、観光地として発展してき

ました。

草原景観としては、夏に黄色の絨毯のように草原を彩るニッコウキスゲ（ゼンテイカ）が有名ですが、草原植物の変化や森林化等に伴い徐々にその生育範囲が狭められつつあり、さらに近年ニホンジカによる植物への影響、生物層や生態系の変化も指摘されています。このため、貴重な植物等を保護するための植生防護柵の設置とあわせ、ニホンジカの行動追跡に基づく防護柵の効果検証を含めた対応等を検討しています。

自然再生の手法

- ▶ 防護柵の設置による植生の保護 → ①
- ▶ ニホンジカの行動追跡 → ②
- ▶ 防護効果の検証 → ③

食害防止に効果のある電気柵等の試験的設置と併せ、シカの行動や被害の状況を把握することにより、効果的な防護方法の実証を行い、今後の対策手法の検討等を進めています。

① 防護柵の設置による植生保護

電気柵等を試験的に設置し、残された貴重な植生の保護を実施します。



植生帯と防護柵の設置状況

② ニホンジカの行動追跡

シカに発信器を装着して日中と夜間の行動の追跡調査を実施します。また、夜間のスポットライトセンサスによりシカの出現状況を調査します。



テレメトリー調査

③ 防護効果の検証

ニホンジカの行動追跡調査の結果等を踏まえて、より効果的な防護柵の配置等を検討します。

関連ホームページ

霧ヶ峰自然環境保全協議会：<http://www.pref.nagano.jp/xtihou/suwa/seikatsu/future/future.htm>